ミニデイサービス便り

はだか祭りの裸男さんが訪問

「国府宮のはだか祭り」の日が保育園のミニデイサービスと一緒になった。

「今日は間違いなく“はだか男さん”に会えますよ」と、朝、皆さんに伝えると歓声があがった。はだか祭りには久しく行ったことがない方ばかり。

半信半疑で聞いておられた方や「はだか男に会えるなら午後のお昼寝は無しでいい」と張りきる方が待ち受ける中、昼食後、保育園の正門から７～８人のはだか男さん方が掛け声よろしく運動場に現れた。

もう、皆さん大喜び。保育園の園児そっちのけ。「こっちへ来て」とスタッフが叫ぶ。

ほだか男さん方、高齢者や車椅子のミニデイサービス集団へよってくださって、記念写真。

するめをいただく人、裸に触る人、「なおいぎれ」を裂いてみんなそれぞれに首に掛けてもらう。「もう、今年は健康だよ。嬉しい」と。

「色が白かったねえ」「スマートな方ばかりだったねえ」「はじめて見たがね」と余韻はいつまでも続きました。

変化のない日常が多い方々の特別な日でした。

初めての折り鶴

午後、年中組の園児さんが遊びに来てくれました。年中組最後の訪問ということで、一生懸命歌を唄ってくれました。

園児が手に持っている“折り鶴”がなんとも形がいびつが多い。どうしたのだろうと思っていたら先生が

「この鶴は、年中組の園児が初めて折った鶴です。つたないですが、ぜひ皆さんにもらってもらいたい。鶴のように長生きをしてください。

そして、園児が折った初めての鶴を、大事に長く持っていてください」とメッセージをいただいた。すると、こどもが大好きなＫさんと、もう一人のＫさん二人が声をあげて泣き出した。

本当に素敵なプレゼントをいただきました。

皆さん、ありがとう。

平成15年３月のデイサービスは

保育園　3月6日・20日

事務所　3月4日・11日・13日・18日・25日・27日

《報告》結核講演会及び保健医療福祉懇談会

会場からの発言

～～在宅療養高齢者の健康診断の必要性～～

去る、２月15日午後３時から一宮市医師会主催の結核講演会が真清田神社の参集殿で行われ、名古屋大学呼吸器内科の長谷川好則先生の結核についてお話しがありました。

ここ数年、高齢者の発病が多くなっており、注意が必要になっている旨の報告がされました。これに関連して、会場から、在宅の高齢者の健康診断がなく発見が遅れるため、高齢者の健康診断が必要ではないかとの発言がありました。

当会の在宅支援でも、利用者さんに結核が認められ、急遽入院された方があり、ワーカー４名の健康診断を行ったところでした。何とか早い段階で、在宅の高齢者の発病が発見できるようシステム作りが必要と感じています。

福祉用具リサイクル情報

◆譲りたい情報

シルバーカー　２台

◆譲りました情報

電動ベッド　１台

車椅子　１台

・電動ベッド及び車椅子をお譲りくださいました皆様に心から厚く御礼申し上げます。

・利用希望された皆様、大変お喜びでした。ご報告させていただきます。

３月の予定

２日(日)	会報「まごころ」発行 定例会・勉強会(協力会員・ふれあい広場)	
４日(火)	ミニデイサービス・ミニデイ委員会 サービス提供責任者会議	(場所・事務所)
	住民参加型在宅福祉サービス団体セミナー	名古屋
６日(木)	ミニデイサービス	(場所・保育園)
７日(金)	精神保健福祉ボランティアの勉強会	ふれあい広場
11日(火)	ミニデイサービス サービス提供責任者会議	(場所・事務所)
	「市民協愛知」　幹事会	あいちNPO交流プラザ
13日(木)	ミニデイサービス テルウェル社会福祉セミナー	(場所・事務所) ウィルあいち
18日(火)	ミニデイサービス・ミニデイ委員会 サービス提供責任者会議	(場所・事務所)
	介護保険サービス事業者講習会	名古屋市公会堂
20日(木)	ミニデイサービス	(場所・保育園)
25日(火)	ミニデイサービス サービス提供責任者会議	(場所・事務所)
27日(木)	ミニデイサービス・ミニデイ定例会 理事会	(場所・事務所)

一宮市サービス事業者連絡会

訪問介護・看護部会定例勉強会

テーマ「精神障害者の在宅ケア」

去る、２月20日(木)一宮市サービス事業者連絡会訪問介護・看護部会定例会にて「精神障害者在宅ケア」について中村メンタルクリニックの中村哲也先生を講師に迎え、勉強会が行われました。

精神障害者への対応について①無理強いをしない

②のんびり、あせらず、楽しみを持たせる

③病院での診察が必要

④薬物療法とリハビリ療法の療法で治療を

など、話されました。

◇　◇　◇

今、一番支援を必要としているのが、精神障害者の方達です。今回の支援費制度にも対象になっていない状況です。

在宅支援は、既に昨年4月から始まってはいますが、精神障害者の問題を福祉としてとらえる経験がある人材も不足しているのが現状です。

訪問介護事業がもっと専門性をつけ支援出来ることが必要かと思います。

～～～～～ある外科医の独り言～～～～～～～～～～～～～～～

感染症

高　勝義

この冬はインフルエンザが猛威を振るい、どこの病院もインフルエンザの患者さんで一杯になりました。インフルエンザにかかられた患者さんにとっては、大変ご迷惑なことであったと思います。しかし、入院期間の短縮などで、昨今、病室が埋まらなかった病院にとっては、インフルエンザ様々であったことと思われます。

当院はといいますと、消化器病を専門とすることが知れ渡っているせいかどうか分かりませんが、これだけインフルエンザが猛威を振るったにもかかわらず、他の病院さんのように病室は一杯にはなりませんでした。それでも、若干のインフルエンザの患者さんが入院され、インフルエンザの恩恵に与ったことも事実です。

ある日、高熱をきたして来院した患者さんがみえました。普通の風邪なのかインフルエンザなのかは検査をしなければ分かりませんが、とりあえず入院治療をすることとなりました。患者さんを大部屋に案内し、ベッドに休んでいただきました。同室には、インフルエンザ以外の病気の患者さんがすでに３名おりました。さー大変です。とある患者さんから、インフルエンザが自分にうつると困るから、そのような患者さんは同室に入れないでくれと、クレームがついたのです。ところが、大部屋ベットは文句を言う患者さんの部屋しか空いていないのです。結局文句を言った患者さんは、その日一日外泊をし、次の日にインフルエンザの患者さんを別の部屋に移動して問題解決となりました。皆さんはこんな出来事を聞いてどう思われるでしょうか？

病院の中には実に色々な細菌を持った患者さんが入院しております。

ＭＲＳＡ、Ｂ型Ｃ型肝炎ウイルス、結核菌、その他の細菌感染等々です。病院ではこれらの菌が他の患者さんにうつらないように、ありとあらゆる手段を講じているのです。ところが、インフルエンザに関しては、特に患者さんを隔離したりすることはないのです。患者さん自身が、そんなことはご存じでなかったとは思いますが、同じように困っている患者さんを自分の保身のために遠ざけようとする、自分勝手な患者さんに、私自身若干の嫌悪を感じたのはいけないことなのでしょうか。後日、その患者さんにはインフルエンザについて十分説明し、隔離の必要のないことを理解してもらいました。(山下病院　院長)

～～～～～～～～～～～～～～～